

令和元年度事業報告

公益財団法人交通文化振興財団

令和元年度は、京都鉄道博物館が4年目に入り、入館者の安定的な確保のため魅力ある博物館活動を継続するとともに、安全安心な施設運営を実現するべく、博物館運営に携わる関係者全てが連携・協力し、永続的な博物館運営の基盤の確実な整備を継続し、企画展、イベントを中心に時節に合わせた様々な活動などにより入館者の安定的な確保に取り組んだ。その結果、1月末までの有料入館者数は705千人で対前年度101.5%となった。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大により1月末から来館者が減少し、感染拡大防止のため2月29日から臨時休館することになった。これにより令和元年度の有料入館者数は775千人に留まった。

事務局では、交通資料調査センターにおいて資料の収集、保存、調査、研究業務を継続的に行うとともに、デジタルアーカイブ「交通文化振興財団デジタル資料館」の運営や資料寄贈に対する相談への対応、資料保存に関する講演等を通じて交通の歴史資料の保存の意義の社会への浸透を図った。また、事務局ブログ等のweb媒体を活用し、情報発信や寄附金懇話活動を実施した。

I 博物館運営等を通じた交通文化の振興

1 京都鉄道博物館

(1) 常設展示

ア 新規展示

- ①本館1階「鉄道のあゆみ」本館2階「生活と鉄道」他に企画展関連展示「平成を振り返る」「写真でみるお召列車と菊花紋章」「皇室関係資料展示」（5/16～7/15）
- ②旧二条駅舎貴賓室に企画展関連展示（特別公開）
- ③プロムナード0系新幹線電車（22-1）排障器にお召列車仕様装飾（5/12～7/15）
- ④本館2階「鉄道と文化」学芸員実習制作展示「駅弁」（7/26）
- ⑤本館1階「車両工場」での車両展示

14系客車「サロンカーなにわ」（5/16～20）、キハ40形「鬼太郎列車」（9/7～12）、EF200形電気機関車・貨車シキ800形（11/16～24）、配給車クル144形・クモル145形（1/24～26）、キハ32形・キハ185形「志国高知 幕末維新号」（1/30～3/1）※臨時休館のため2/28で終了

イ 展示品整備

鉄道ジオラマの模型車両のモーター・台車の整備調整、「列車を安全に走らせよう」の車両及び線路メンテナンス、運転シミュレーターのメンテナンス、プラップ式列車発車標修繕、マロネフ59形やスシ28形等車両窓枠修繕、打音検査体験修繕、実物車両内電灯交換・回路修繕、軌道自転車ペダルベルト取替え、腕木式信号機手すり修繕、クハ489形シールドビーム交換、密着連結器体験修繕、クハ103形ドア補修等

ウ 施設、設備工事

- ①消防設備、空気環境測定、水質検査測定等の定期点検対応
- ②館内案内サインの修正・追加

- ③連絡デッキ階段手すり修繕（5/14）
- ④旧二条駅舎用冷暖房装置圧縮機取替作業（8/7）
- ⑤大型機器保守点検、防火シャッター修繕作業（9/4）
- ⑥本館2階キッズパーク絨毯張替え（11/12～13）
- ⑦SLひろば子供用遊具設置工事（11/18～2/7）
- ⑧特別収蔵庫加湿除湿器修繕（12/2）
- ⑨本館2階鉄道ジオラマ機器改修作業（2/11）
- ⑩鳩除けネット設置作業（3/18、23）

(2) 企画展、資料展

ア 企画展等

① 企画展「鉄道を翔けた鳳凰～お召列車と貴賓室～」(5/16～7/15)

新天皇即位を記念した企画展として、鉄道が開業以来、歴代の天皇・皇后の行幸啓に際し主要な交通手段として果たしてきた役割を「お召列車」や「貴賓室」で用いられた装飾品や特別な設えなどを通して紹介した。会期中には学芸員による企画展と関連する常設展示をめぐる解説ツアーを毎月実施したほか、関連展示「写真で見るお召列車と菊花紋章」を本館2階「鉄道と文化」コーナーで開催した。また、企画展最終日には御乗用列車の運転に従事した宇田賢吉氏による「クロージングトークショー」も開催した。

② 企画展「列車愛称進化論～名前から見る鉄道～」(9/21～12/8)

鉄道省における列車愛称の起源から90年になることを記念した企画展として、列車愛称が鉄道利用者に利便性だけでなく親しみを持たせる役割を担ってきたことや列車とともに変化してきた鉄道の歴史を紹介。愛称に関する収蔵資料を過去最大級に展示、列車愛称を様々な視点をもとに分類し展示した。会期中には学芸員の解説ツアーを毎週開催したほか、学芸員講座「おとなの学び講座」を本企画展に合わせてスタートした。また期間中に本館1階の展示車両489系電車が従来の国鉄色から白山色へラッピングされたことに合わせて当該車両のヘッドマークを期間限定で掛け換えた。

イ 資料展等

- ①「国鉄とスポーツ」(4/13～7/7)
- ②「刷物で見るエキゾチックなJAPAN」(7/13～9/29) ※ICOM京都大会2019関連イベント
- ③「鉄道腕章」(10/5～1/19)
- ④「駅スタンプ」(1/25～4/5) ※臨時休館のため2/28で終了

ウ 収蔵写真展

- ①「かつての鉄道風景～鉄道で働く人々～」(4/6～7/15)
- ②「ハレの日の鉄道」(7/20～11/24)
- ③「関西の路面電車」(11/30～3/29) ※臨時休館のため2/28で終了

エ 部外協力展

- ①鳥鐵ノススメ写真展(9/7～16)
- ②フジフィルム「50,000人の写真展」(10/26～11/3)

(3) イベント等

ア プラレール 60 周年企画展「おかげさまで 60 年まるごとプラレール展」(H31/3/23～5/7)

※平成 30 年度からの継続

イ グランドオープン 3 周年記念セレモニー (4/29)

ウ 夏休み特別展「新幹線変形ロボシンカリオン×京都鉄道博物館 2019」(7/20～9/10)

昨年に引き続き当館が作品中に登場する TV アニメ新幹線変形ロボ シンカリオンプロジェクトと連携し、パネル・ジオラマ・AR を使用した体験展示「AR チェンジ！シンカリオン！」、関連玩具などを展示。

エ 「あなたはどっち系？ゴーパー？ヨンパー？」(投票 9/1～29、公開 10/14～2/25)

一般からの投票結果により実物車両のラッピングを決定するイベントを実施。投票は来館者とネットの両方とし、決定した 489 系は白山色にラッピングされた。

オ トークショー「こんな目線で見てみよう！～トワイライト・夜行・観光列車～」(10/13)

トークショー『「トワイライトエクスプレス」の魅力に迫る』(10/14)

カ トークショー連動企画「トワイライトエクスプレス特別車内公開」(10/13～14)

トークショー参加者限定で、人気の高いトワイライトエクスプレス「スロネフ 25 形 501 号車」「スシ 24 形 1 号車」の車内公開を実施した。

キ 秋イベント「京都鉄博なつかし縁日」(11/2～4)

ク 京都鉄道博物館×京都駅ビルコラボ企画 AR リアル謎解きゲーム「トキ、カケル。」(10/26～3/31)

AR を利用した周遊型の無料イベントを駅ビルと合同で実施した。

※2/29 以降は京都駅ビル会場のみで開催

ケ 冬イベント「プラレールフェスティバル in 京都鉄道博物館」(12/14～2/11)

プラレール 60 周年の締めくくりとして「プラレールツリー」「巨大ジオラマ」に加えて不思議な写真がとれるスポットも展示した。また、初日には子供向けワークショップ「クッキーでつくろう！プラレール C62 形蒸気機関車」を実施し、参加者が制作した作品を翌日より展示した。

コ 「新幹線変形ロボシンカリオン 360° ザ・ムービー」(12/14～3/1) ※臨時休館のため 2/28 で終了

サ 入館者数 400 万人達成記念セレモニー (2/1)

シ 「志国高知 幕末維新号」脱藩！車両展示及びパネル展示(2/1～3/1) ※臨時休館のため 2/28 で終了

ス 春イベント「ハローキティ新幹線展」(2/22～) ※次年度継続予定

大人気のハローキティ新幹線のコンセプトや魅力の紹介パネルやフォトスポットを設置。あわせて本館 1 階の実物車両 500 系新幹線をハローキティ新幹線仕様にラッピングした。

セ コスプレイベント「梅コス！」(6/9、11/10)

ソ 「2050 年 CO2 ゼロへ、いざ出発進行！ in 京都鉄道博物館」(6/22)

京都市環境政策局地球温暖化対策室と協力して環境 PR ブースの設置、京都市交響楽団の弦楽四重奏ミニコンサートと環境トークを実施した。

タ 「京の七夕」に協力 (8/10～12)

梅小路公園エリアでの「京の七夕」に協力し、夜間延長開館、扇形車庫内 SL 頭出し展示を行った。

チ 「下京・京都駅前サマーフェスタ」に協力 (8/24)

ツ 2019「梅小路 キッズアートキャンパス 2019」に協力 (11/3)

地域連携活動として手回し発電機による鉄道模型の走行体験等を実施した。

- テ 下京区 140 周年記念事業「第 29 回下京ふれ愛ひろば」に協力 (11/10)
 地域連携活動として手回し発電機による鉄道模型の走行体験、夜間の扇形車庫エリアの一般無料開放を実施した。
- ト 「京と地球の共生府民会議環境連続セミナー」(12/1)
 京都府府民環境部エネルギー政策課と協力してトークショーと学芸員ガイドツアーを実施した。
- ナ 科博連サイエンスフェスティバルに協力 (2/2 於：京都青少年科学センター)
 京都市青少年科学センターにて科学の振興を目的に、手回し発電機による鉄道模型の走行体験を実施した。
- ニ 各種ワークショップ等の実施
 車両解説セミナー：「お召列車と SL」(4/20、21)、「マロネフ 59 形・スシ 28 形」(5/11、12)、
 「多くの列車愛称を纏った車両たちへクハ 489 形・クハネ 581 形」(11/16、17)
 展示品解説セミナー：「硬券印刷」(6/22、23、2/15、16)、「昔の駅で駅員&車内改札」(7/20、21)
 「腕木式信号機」(9/7、8)
 工作教室：夏のサイエンス工作「手作り乾電池で昔の信号機を作ろう！」(8/5、6)、夏の工作「SL
 ミニナンバープレートを作ろう！」(8/7～9)
 その他：鉄道映画上映会「愛称をもつ列車たち」(10/19、20)、子供向けワークショップ「ブロック
 でトレイン！」(12/21、22)、鉄道映画上映会「扇形車庫の SL 入換風景～重連をつくる～」
 (1/11～13)
- ヌ 学芸員講座「おとなの学び講座」(10/3、17、11/7、21)

(4) 定例行事・活動

- ア 鉄道ジオラマの運転 : 1,734 回
 イ SL スチーム号の運転：運転回数 2,882 回、乗車人員 228,586 人 (約 79 人/回)

(5) 広告・宣伝・誘致活動

項目	数量
ア ポスターの掲出	
(ア) JR 駅貼り	(5 回) 4,903 枚
(イ) 近畿圏主要博物館・交通関係博物館	(5 回) 747 枚
イ 催し物案内チラシの配布	
(ア) 近畿圏の JR 駅	(0 回) 0 枚
(イ) 近畿圏主要博物館・交通関係博物館	(6 回) 98,000 枚
ウ マスコミへのパブリシティの配布 (関係記者クラブ、出版関係各社等)	毎月合計約 70 箇所へ配布 54 回
エ 誘致活動	
(ア) ホームページアクセス件数 (2019.4.1～2020.3.31)	1,944,187 件 (1 日平均 5,327 件)
(イ) フェイスブック投稿件数	171 件(1 ヶ月平均 14 件)

(ウ) マスコミ取材対応	230 件
(エ) LINE@による情報配信	
・お友達登録数	70,193 人 (年度末総累計)
・情報配信 (クーポン配信含む)	22 回 (1 ヶ月平均 1.8 件)
(オ) インスタグラム投稿	1 回 (3/24 開設)

(6) 教育普及活動

ア 教育普及活動の実施

- ・職場体験学習：京都市立栗陵中学校 他 4 校計 13 名 (5/28、30、31、11/8、12、14、15)
- ・出張授業：亀岡市立大井小学校 (9/27)、京都府立京都すばる高等学校 (10/29)
- ・連携授業：京都産業大学「O/OCF-PBL2」(前期)
- ・博物館実習や修学旅行等の研修の受入れ：5 校 計 9 名
- ・総合学習受入れ：京都市立梅小路小学校 (10/28) ※学習発表会 3/3 は臨時休館のため中止
- ・その他：京都市環境政策局「夏休み中学生エコバスツアー」(7/31)

イ 館内視察等への対応

- ・マレーシア政府関係者視察 (4/16)
- ・JTB 修学旅行担当者視察会 (7/26)
- ・香港歴史博物館視察、学芸員意見交換会 (9/5)
- ・インド鉄道省研修生視察 (9/9)
- ・スイス交通博物館主催ツアー (11/16)
- ・四国鉄道文化館、西条市ほか視察 (1/17)

(7) 博物館関係コミュニケーション活動等

ア 京都市内博物館施設連絡協議会総会出席 (6/21)

イ 日本機械学会「蒸気機関車と検修施設群」機械遺産認定式出席 (8/7)

ウ ICOM 京都大会 2019 協力 (9/1~7)

- ・日本初開催である国際博物館大会 (ICOM) 京都大会への参加
- ・同大会参加者への無料入館対応
- ・博物館マーケティング・広報国際委員会 (MRP) のオフサイト・ミーティング会場として提供。

エ 全国科学博物館協議会「令和 2 年度第 2 回総会」出席 (2/13、14 於：オーテピア・高知みらい科学館)

オ 英国国立鉄道博物館 (NRM) へ資料調査実施 (2/8~13)

(8) 入館者数の状況 (入館者数の詳細は「別表 1」のとおり。)

(単位：千人)

項目	京都鉄道博物館
令和元年度	775

2 事務局における文化遺産調査及び交通資料の収集・保存に関する事項（交通資料調査センター）

交通に関わる文化遺産の調査や歴史資料の収集・保存については、交通文化の継承と資料の散逸防止及び今後の公益活動の充実のため、財団事務局内の交通資料調査センターにおいて引き続き活動を実施した。令和元年度においては、下記のとおり交通に関わる文化遺産の調査及び交通資料の収集、保存、公開を行った。

(1) 交通関係歴史資料の収集・保存

交通に関わる歴史資料を適切な環境で保存、管理するため、収集、整理・整備を行い、写真資料を中心に収蔵資料のデジタル化作業を実施した。寄贈された写真フィルムの中で、劣化がみられるものについては、修復・保存処置を施したうえでデジタル化を行った。また、明治～昭和戦前期の交通に関わる土木関係資料の寄贈依頼に対応するため複数回にわたり現地での資料調査を実施した。さらに、当財団の評議員でもあった故斎藤峻彦氏が所蔵していた交通関係図書約 5,000 点の寄贈を受け入れ、活用に向けて整理・配架作業を進めた。

- ・図書・資料の購入 114 点
- ・受贈 23 件 14,314 点
- ・資料・図書の整理・登録 資料 4,560 点 図書 1,888 点
- ・資料のデジタル化 17,949 点

(2) デジタルアーカイブの運営

交通資料調査センターの所蔵資料を web にて公開する、デジタルアーカイブ「交通文化振興財団デジタル資料館」の掲載データの追加等を実施した。また、専門図書館協議会からの依頼で、同会の機関誌へ紹介記事の執筆を行った。

- 令和元年度末掲載点数 8,587 点
- 平成30年度末掲載点数 6,163 点
- 年度内追加点数 2,424 点

(3) 文化遺産調査

日本各地に残された交通に関する施設や建造物、車両、文書等の文化遺産について、文化遺産の現状確認と来歴や諸元等を記録保存するための現地調査及び文献による事前事後調査を実施し、文化遺産の後世への継承に努めた。また、事物を管理する自治体等との意見交換やヒアリングを実施し、保存・活用アドバイスをを行った。

調査事物：19件

(4) その他

- ・財団ホームページの「事務局ブログ」を活用し、調査・資料収集の様子、収蔵資料に関する情報発信を行った。
- ・事務局内に図書の閲覧スペースを設置し、閲覧対応及び調査・研究への協力を実施した。
- ・外部有識者（大学教員）に交通資料調査センター特別調査員を委嘱し、活動における公益性の担保及び内容の充実を図った。
- ・日本鉄道保存協会総会・見学会への参加や調査時の管理団体との意見交換を通じ、各地の保存団体との交流・情報交換を進めた。

- ・デジタルアーカイブの運営及び資料のデジタル化作業に活用するため、交通資料調査センターの職員が準デジタルアーキビスト養成研修に参加し資格を取得した。
- ・資料の収集・保存に関する講演を外部団体の講演会への出講で実施し、交通の歴史資料の保存・活用についての知識の普及に努めた。

II 財団運営に関する事項

1 本年度の役員等の異動

(1) 評議員

《退任》	坂田 正行、松木 茂	以上	令和元年6月10日付
《新任》	赤石 良治、正司 健一、福山 隆夫	以上	令和元年6月10日付
《退任》	小田 昇	以上	令和元年7月10日付
《新任》	南條 正幸	以上	令和元年7月29日付

(2) 理事

《退任》	奥田 仁、白石 敏男	以上	令和元年6月10日付
《新任》	三林 宏幸、村林 健吾	以上	令和元年6月10日付

(3) 顧問

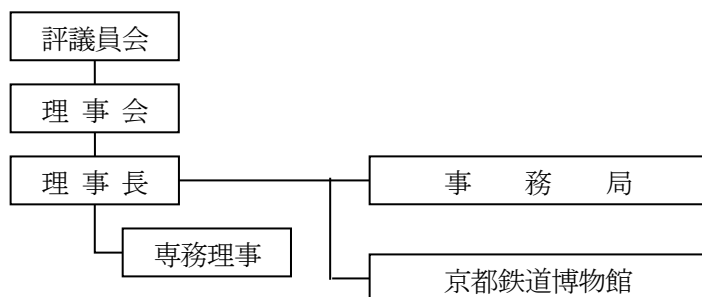
《退任》	竹内 哲夫	以上	令和元年5月20日付
------	-------	----	------------

令和2年3月31日現在の評議員、理事、監事は[別表2]のとおりである。

2 財団組織

(1) 組織

(令和2年 3月31日現在)



(2) 構成員

(令和2年 3月31日現在)

事業所名	職員	嘱託	計
事務局	3	—	3
京都鉄道博物館	18	—	18

- ・役員を除く。
- ・京都鉄道博物館の職員のうち3名はJR西日本からの出向者。
- ・京都鉄道博物館の職員のうち3名は事務局兼務。
- ・上記以外に事務局にて臨時雇用員を3名、京都鉄道博物館にて臨時雇用員1名を雇用している。

(3) 会議

ア 評議員会

第15回評議員会 (定時評議員会)

(7) 日 時 令和元年6月10日

(イ) 場 所 ホテルグランヴィア大阪

(ウ) 目的事項

① 決議事項

第1号議案 平成30年度決算の件

第2号議案 評議員6名選任の件

第3号議案 理事7名選任の件

第4号議案 常勤理事の報酬額の決定の件

② 報告事項

報告1 平成30年度事業報告の件

第16回評議員会（みなし決議）

(ア) 提 案 者 代表理事理事長 来島達夫

(イ) 提案の内容 議案 評議員の選任の件

(ウ) 決議があったとみなされた日 令和元年7月29日

イ 理事会

第31回理事会

(ア) 日 時 令和元年5月20日

(イ) 場 所 ホテルグランヴィア大阪

(ウ) 目的事項

① 決議事項

第1号議案 平成30年度事業報告の件

第2号議案 平成30年度決算の件

第3号議案 第15回評議員会（定時評議員会）の招集の件

② 報告事項

報告1 職務執行状況報告の件

報告2 西日本旅客鉄道株式会社に係る代表理事理事長の利益相反取引の報告の件

報告3 資金運用報告の件

第32回理事会（みなし決議）

(ア) 提 案 者 理事 三浦 英之

(イ) 提案の内容 第1号議案 代表理事理事長及び代表理事専務理事の選定の件

第2号議案 理事長に事故があるときの順序の件

(ウ) 決議があったとみなされた日 令和元年6月14日

第33回理事会（みなし決議）

(ア) 提 案 者 代表理事理事長 来島 達夫

(イ) 提案の内容 議案 第16回評議員会招集の件

(ウ) 決議があったとみなされた日 令和元年7月22日

第34回理事会（みなし決議）

- (7) 提案者 代表理事理事長 来島 達夫
- (4) 提案の内容 第1号議案 2020年度事業計画書の件
第2号議案 2020年度収支予算書の件
第3号議案 2020年度資金調達及び設備投資の見込みの件
- (ウ) 決議があったとみなされた日 令和2年3月16日
- (エ) 職務執行状況報告について

本理事会については、3月6日に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、定款第38条第2項に基づくみなし決議に変更となった。そのため、代表理事理事長及び代表理事専務理事の職務執行状況報告については、上記の提案とともに書面による報告とした。なお、本措置については内閣府公益認定等委員会事務局に確認の上実施したものである。

(4) 内閣府へ届出

- ・令和元年6月28日 事業報告等の提出
「平成30年度財産目録」「平成30年度貸借対照表」「平成30年度正味財産増減計算書」等
- ・令和元年7月10日 変更の届出（役員等の変更）
「役員等の名簿」「履歴事項全部証明書」等
- ・令和元年10月11日 変更の届出（役員等の変更）
「役員等の名簿」「履歴事項全部証明書」等
- ・令和2年3月30日 事業計画書等の提出
「2020年度事業計画書」「2020年度収支予算書」「2020年度資金調達及び設備投資の見込みについて」、「第34回理事会議事録の写し」

3 寄附金の受入れ

個人及び団体より寄附金の申し込みがあり、下記のとおり受入れた。

- ・一般寄附金 個人13件（うち継続寄附4件）
団体1件

4 その他

(1) 財団事務局ブログ運営

- ・更新29回、年度累計38,490PV

(2) 寄附金の懇話活動

- ・ホームページ及び事務局ブログによる寄附お願いの掲載・発信
- ・団体、個人へのパンフレットの配布
- ・ファンドレイジングサイトへの情報掲載
- ・寄付月間（12月）の賛同パートナーへ登録し、期間中、事務局ブログでの周知、パンフレット・オリジナルカレンダーの送付等の懇話活動を実施。

Ⅲ 関連事業

博物館来館者の利便に資するとともに、当法人が健全な発展を図るための収益事業として、京都鉄道博物館にて鉄道に関する各種のグッズ、土産品、飲食物などの販売を行い、下記の収益を得た。

単位：円

項 目	物品販売収入	営業料収入	計
金 額	4,313,800	22,546,952	26,860,752

[別表1]

平成31年4月1日～令和2年3月31日

	種 別		令和元年度 (千人)
京都鉄道博物館	個人	大 人	517.4
		大学生・高校生	18.6
		中学生・小学生	78.8
		幼 児	99.3
		計	714.1
	団 体	大 人	22.3
		大学生・高校生	2.9
		中学生・小学生	20.8
		幼 児	15.7
		計	61.7
	合 計		775.8

[別表 2]

評 議 員 名 簿

氏 名	現 職
赤石良治	東日本旅客鉄道株式会社常務取締役
伊勢正文	西日本旅客鉄道株式会社 執行役員総合企画本部副本部長
稲見光俊	公益財団法人鉄道総合技術研究所 監事
正司 健一	神戸大学大学院経営学研究科 教授
南條 正幸	関西鉄道協会 専務理事
福山 隆夫	京都駅ビル開発株式会社 代表取締役社長

理 事 名 簿

役 職	常勤 ・非常勤	氏 名	現 職
理 事 長	非常勤	来島達夫	西日本旅客鉄道株式会社 取締役副会長
専務理事	常勤	三浦英之	公益財団法人交通文化振興財団 専務理事
理 事	非常勤	佐伯 洋	一般社団法人日本鉄道車輛工業会 専務理事
理 事	非常勤	高野光司	公益財団法人日本交通公社 理事
理 事	非常勤	福島 純	西日本旅客鉄道株式会社 執行役員広報部長
理 事	非常勤	三林宏幸	東日本旅客鉄道株式会社 総務・法務戦略部担当部長
理 事	非常勤	村林健吾	北海道旅客鉄道株式会社 総務部長

監 事 名 簿

役 職	常勤 ・非常勤	氏名	現 職
監 事	非常勤	竹山健二	公認会計士
監 事	非常勤	藤原嘉人	西日本旅客鉄道株式会社 執行役員財務部長

令和2年3月31日現在 五十音順 (敬称略)

令和元年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、作成しない。

令和2年5月

公益財団法人交通文化振興財団